

水稻の生育情報

「コシヒカリの幼穂形成が進んでいます。間断かん水を行いましょう。」

概況（7月11日 水稻定点ほ場調査結果から）

7月上旬の平均気温と日照時間は、ともに平年よりかなり高く推移しました（図）。水稻の生育は、平年と比較して草丈は長く、茎数は少なく、葉色は淡い～同等に推移しています（表）。なお、現時点での幼穂長から、出穂期は4月下旬移植の場合平年よりやや早く、5月上中旬移植の場合遅いと予測されます。

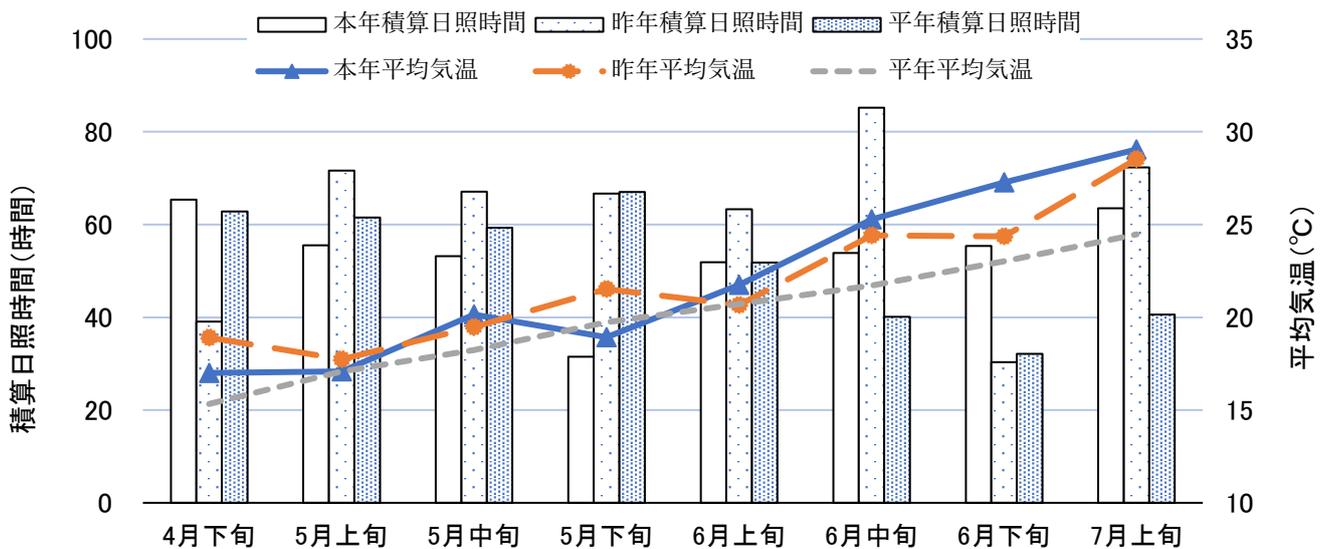


図 4月下旬から7月上旬別平均気温と日照時間（古河）（注）平年値は1991～2020年の平均

表 定点ほ場の生育調査結果（令和7年7月11日現在）

品種	調査地点	田植日 (月/日)	植付本数 (本/株)	栽植密度 (株/m ²)	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	葉色 葉色板	幼穂長 mm	出穂期予測 ※2
コシヒカリ	坂東市	5/2	4.6	16.7	101.8 (88.6)	26	3.7 (3.8)	28.3	7/27 (7/20)
	境町	4/30	4.5	15.2	96.2 (91.9)	27	3.2 (3.8)	115.0	7/22 (7/24)
	五霞町	5/8	4.8	15.9	95.3 (84.9)	29	3.1 (3.7)	3.2	8/6 (7/29)
	古河市	5/14	4.5	15.9	90.3 (83.1)	28	3.4 (3.8)	9.4	8/2 (7/26)

※()内は過去5年間の平均値。

※2 出穂期は、気温が平年並みに推移したときの予測値。

今後の栽培管理

「3～4日間隔で入水と落水を繰り返す「間断かん水」を出穂直前まで続けましょう。
 「極端に葉色が淡いほ場では、白未熟粒の発生低減のため追肥を行いましょう。」

○病虫害防除（斑点米カメムシ類対策）

近年、作期の長期化に伴い、カメムシの被害が増加しています。昨年度被害が多発生したほ場やカメムシが多く見られるほ場では、薬剤による防除を行いましょう。防除適期は、出穂期～穂揃え期（全体の50～90%の穂が出たとき）および出穂後10日後ごろの計2回です。粒剤を使う場合は、農薬の成分を発揮するまで少し時間がかかるため、防除適期の2～3日前に施用しましょう。

なお、開花中の防除は、受精能力の低下を招き不稔へつながりますので、早朝や夕方に行いましょう。